

マルチリンガル教育センター アニュアルレポート 2023

2024.9.13 / 作成:マルチリンガル教育センター広報委員会

(1) 全学共通教育マルチリンガル教育科目

1. 概要

マルチリンガル教育センターは、大阪大学全学共通教育において、英語をはじめとする各国語やそれに関係する異文化理解についての教育を下記のように実践した。開講科目の決定、時間割の編成、教員の配置、シラバスの作成、成績管理等の業務は、センターに所属する教員で構成されたカリキュラム委員会とセンター教務係が主体となって実施した。

2. 第1外国語(英語):表1~3

全学部生を対象に第1外国語「総合英語」科目を実施し、またコンピューター上での自主学習を中心とする「実践英語(e-learning)」科目では期末試験として TOEFL ITP を実施した。

3. 第2外国語/選択外国語/グローバル理解:表1・2・4・6

各学部が独自に指定するドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語の「第2外国語」科目と、それらの各言語に対応する演習「グローバル理解」科目を実施した。文学部と人間科学部の学生には英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、ギリシア語、ラテン語といった「選択外国語」科目も開講した。またドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語についてはさらなる語学の向上を望む学生向けに「第2外国語上級」も開講した。また学部新生のうち留学生のみを対象とした「日本語」科目も実施した。

4. グローバル理解(特別外国語):表5

全学部生を対象に、外国語学部の専任教員の担当による広東語、モンゴル語、インドネシア語、ウルドゥー語、トルコ語、ポルトガル語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ハンガリー語、デンマーク語の「グローバル理解(特別外国語)」科目を開講し、英語等のメジャーな言語に留まらない、真にグローバルな言語文化に関する教育を実施した。

5. その他の実施科目:表7~9

上記の主要科目に加えて、キャンパスライフ一貫型高度国際性涵養課目として、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語等の科目を実施した。また上記主要科目の中から再履修者専用の科目、さらには2018年以前の旧カリキュラムに対応した科目も別途実施した。

表(1)2023年度に開講した「第1外国語」「第2外国語」「選択外国語」「グローバル理解」(1年次)表

配当 年次	科目 区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
1 年次	第 1 外 国 語	総合英語(Project-based English)	12	347	28.9	15	360	24.0
		総合英語(Content-based English)	23	843	36.7	17	563	33.1
		総合英語(Liberal Arts & Sciences)	83	3,379	40.7	89	3,479	39.1
		総合英語(Performance Workshop)	32	985	30.8	43	1,151	26.8
		総合英語(Academic Skills)	9	267	29.7	9	267	29.7
		総合英語(integrated course)Ⅰ・Ⅲ・Ⅱ・Ⅳ	32	1,254	39.2	32	1,273	39.8
		合計	191	7,075	37.0	205	7,093	34.6
	第 2 外 国 語	ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ	30	1,101	36.7	30	1,088	36.3
		フランス語初級Ⅰ・Ⅱ	19	649	34.2	19	680	35.8
		ロシア語初級Ⅰ・Ⅱ	7	63	9.0	7	63	9.0
		中国語初級Ⅰ・Ⅱ	18	870	48.3	18	892	49.6
		朝鮮語初級Ⅰ・Ⅱ	1	23	23.0	1	25	25.0
		スペイン語初級Ⅰ・Ⅱ	2	45	22.5	2	42	21.0
		イタリア語初級Ⅰ・Ⅱ	1	10	10.0	1	11	11.0
		合計	78	2,761	35.4	78	2,801	35.9
	選 択 外 国 語	英語選択	5	164	32.8	5	165	33.0
		ドイツ語初級Ⅰ・Ⅱ選択	2	55	27.5	2	54	27.0
		フランス語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	37	37.0	1	38	38.0
		ロシア語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	6	6.0	1	6	6.0
		中国語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	42	42.0	1	42	42.0
		ラテン語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	23	23.0	1	16	16.0
		ギリシャ語初級Ⅰ・Ⅱ選択	1	8	8.0	1	5	5.0
		合計	12	335	27.9	12	326	27.2
	グ ロ ー バ ル 理 解	国際コミュニケーション演習(ドイツ語)	7	236	33.7	7	242	34.6
		地域言語文化演習(ドイツ語)	26	851	32.7	21	608	29.0
		国際コミュニケーション演習(フランス語)	19	658	34.6	15	509	33.9
		地域言語文化演習(フランス語)	-	-	-	-	-	-
		国際コミュニケーション演習(ロシア語)	3	46	15.3	3	27	9.0
		地域言語文化演習(ロシア語)	2	20	10.0	2	20	10.0
		国際コミュニケーション演習(中国語)	18	901	50.1	12	632	52.7
		国際コミュニケーション演習(朝鮮語)	1	24	24.0	1	24	24.0
		国際コミュニケーション演習(スペイン語)	2	44	22.0	-	-	-
		地域言語文化演習(スペイン語)	-	-	-	2	42	21.0
国際コミュニケーション演習(イタリア語)		1	7	7.0	-	-	-	
地域言語文化演習(イタリア語)		-	-	-	1	8	8.0	
合計	79	2,787	35.3	64	2,112	33.0		

(2)2023 年度に開講した「第1 外国語」「第2外国語」「選択外国語」「グローバル理解」(2年次)

配当 年次	科目 区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
2 年次	第 1 外 国 語	総合英語(Project-based English)	8	245	30.6	5	134	26.8
		総合英語(Content-based English)	7	257	36.7	6	188	31.3
		総合英語(Liberal Arts & Sciences)	50	2,088	41.8	38	1,459	38.4
		総合英語(Performance Workshop)	22	690	31.4	16	439	27.4
		総合英語(Academic Skills)	7	211	30.1	5	150	30.0
		合計	94	3,491	37.1	70	2,370	33.9
	第 2 外 国 語	ドイツ語中級	35	1,173	33.5	6	191	31.8
		フランス語中級	21	762	36.3	7	215	30.7
		ロシア語中級	7	82	11.7	2	27	13.5
		中国語中級	19	884	46.5	5	278	55.6
		朝鮮語中級	2	37	18.5	1	14	14.0
		スペイン語中級	3	66	22.0	1	18	18.0
		イタリア語中級	1	10	10.0	1	8	8.0
		合計	88	3,014	34.3	23	751	32.7
	選 択 外 国 語	英語選択	5	177	35.4	3	99	33.0
		ドイツ語中級選択	2	51	25.5	1	26	26.0
		フランス語中級選択	1	37	37.0	1	20	20.0
		ロシア語中級選択	1	8	8.0	1	7	7.0
		中国語中級選択	1	23	23.0	1	14	14.0
		ラテン語中級III・IV選択	1	15	15.0	1	9	9.0
		ギリシャ語中級III・IV選択	1	7	7.0	1	5	5.0
		合計	12	318	26.5	9	180	20.0
	グ ロ ー バ ル 理 解	国際コミュニケーション演習(ドイツ語)	-	-	-	-	-	-
		地域言語文化演習(ドイツ語)	7	193	27.6	2	54	27.0
		国際コミュニケーション演習(フランス語)	2	39	19.5	4	44	11.0
		地域言語文化演習(フランス語)	2	45	22.5	1	3	3.0
		国際コミュニケーション演習(ロシア語)	1	3	3.0	-	-	-
		地域言語文化演習(ロシア語)	1	8	8.0	1	8	8.0
		国際コミュニケーション演習(中国語)	2	98	49.0	1	39	39.0
		地域言語文化演習(中国語)	-	-	-	-	-	-
		地域言語文化演習(朝鮮語)	1	13	13.0	1	14	14.0
		国際コミュニケーション演習(スペイン語)	1	13	13.0	-	-	-
		地域言語文化演習(スペイン語)	-	-	-	1	13	13.0
国際コミュニケーション演習(イタリア語)		1	9	9.0	-	-	-	
地域言語文化演習(イタリア語)		-	-	-	1	8	8.0	
合計	18	421	23.4	12	183	15.3		
総計			572	20,202	35.3	473	15,816	33.4

(表3)2023 年度に開講した「実践英語(e-learning)」

配当年次	科目区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
1 年次	第 1 外 国 語	実践英語 (e-learning入門)	-	-	-	1	3,450	3450.0
		実践英語 (e-learning応用)	1	134	134.0	-	-	-
2 年次		実践英語 (e-learning応用)	1	3496	3496.0	1	421	421.0

(表4)2023 年度に開講した「第二外国語(上級)」

配当年次	科目群	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
2 年次	上 級 外 国 語	ドイツ語上級	1	5	5.0	1	3	3.0
		フランス語上級	1	7	7.0	1	8	8.0
		ロシア語上級	1	3	3.0	1	2	2.0
		中国語上級	1	5	5.0	1	4	4.0
合計			4	20	5.0	4	17	4.3

(表5)2023 年度に開講した「グローバル理解(特別外国語)」

配当年次	科目群	科目名	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
指 定 な し	グ ロ ー バ ル 理 解 (特 別 外 国 語 演 習)	特別外国語演習 (広東語) I	1	13	13.0	-	-	-
		特別外国語演習 (モンゴル語) I	1	2	2.0	-	-	-
		特別外国語演習 (インドネシア語) I	1	16	16.0	-	-	-
		特別外国語演習 (ウルドゥー語) I	1	8	8.0	-	-	-
		特別外国語演習 (トルコ語) I	1	5	5.0	-	-	-
		特別外国語演習 (スウェーデン語) I・II	-	-	-	-	-	-
		特別外国語演習 (ポルトガル語) I・II	1	18	18.0	1	7	7.0
		特別外国語演習 (タイ語) I	-	-	-	1	16	16.0
		特別外国語演習 (ベトナム語) I	1	18	18.0	-	-	-
		特別外国語演習 (ビルマ語) I	-	-	-	1	23	23.0
		特別外国語演習 (ヒンディー語) I	-	-	-	1	33	33.0
		特別外国語演習 (ハンガリー語) I	-	-	-	1	36	36.0
		特別外国語演習 (デンマーク語) I	1	9	9	1	25	25.0
合計			8	89	11.1	6	140	23.3

(表6)2023 年度に開講した「日本語科目」

配当 年次	科目 区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
1 ・ 2 年 次	第 2 外 語	総合日本語	2	38	19.0	1	15	15.0
		専門日本語	2	18	9.0	3	35	11.7
	バ グ 解 ル ロ 理 !	多文化コミュニケーション（日本語）	5	52	10.4	3	37	12.3
合計			9	108	12.0	7	87	12.4

(表7)2023 年度に開講した高度国際性涵養教育科目

配当 年次	科目 区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
2 年 次 以 上	高 度 国 際 性 涵 養 教 育 科 目	ドイツ語初級Ⅰ（多言語学習用科目）	-	-	-	2	12	6.0
		フランス語初級Ⅰ（多言語学習用科目）	-	-	-	1	0	0.0
		ロシア語初級Ⅰ（多言語学習用科目）	-	-	-	1	7	7.0
		中国語初級Ⅰ（多言語学習用科目）	-	-	-	1	4	4.0
		ドイツ語言語文化演習（中級継続）	-	-	-	8	7	0.9
		フランス語言語文化演習（中級継続）	-	-	-	5	9	1.8
		ロシア語言語文化演習（中級継続）	-	-	-	1	0	0.0
3 年 次 以 上	高 度 国 際 性 涵 養 教 育 科 目	ドイツ語初級Ⅱ（多言語学習用科目）	2	6	3.0	-	-	-
		フランス語初級Ⅱ（多言語学習用科目）	1	0	0.0	-	-	-
		ロシア語初級Ⅱ（多言語学習用科目）	1	4	4.0	-	-	-
		中国語初級Ⅱ（多言語学習用科目）	1	2	2.0	-	-	-
		ドイツ語言語文化演習（中級継続）	4	2	0.5	-	-	-
		フランス語言語文化演習（中級継続）	2	0	0.0	-	-	-
		ロシア語言語文化演習（中級継続）	1	0	0.0	-	-	-
合計			12	14	1.2	19	39	2.1

(表8)2023 年度に開講した「再履修者向けクラス」

配当 年次	科目 区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
1 年 次	第 2 外 国 語	ドイツ語初級Ⅰ	-	-	-	2	29	14.5
		フランス語初級Ⅰ	-	-	-	1	22	22.0
		ロシア語初級Ⅰ	-	-	-	1	0	0.0
		中国語初級Ⅰ	-	-	-	1	29	29.0
	バグ ル 解 理 Ⅰ	地域言語文化演習（ドイツ語）	-	-	-	1	16	16.0
2 年 次	第 2 外 国 語	ドイツ語初級Ⅱ	2	76	38.0	2	31	15.5
		フランス語初級Ⅱ	1	35	35.0	-	-	-
		ロシア語初級Ⅱ	1	5	5.0	-	-	-
		中国語初級Ⅱ	1	63	63.0	-	-	-
		ドイツ語中級	-	-	-	3	53	17.7
		フランス語中級	-	-	-	-	-	-
		ロシア語中級	-	-	-	-	-	-
	中国語中級	-	-	-	-	-	-	
	グ ル 解 理 Ⅱ	国際コミュニケーション演習（ドイツ語）	-	-	-	2	14	7.0
	地域言語文化演習（ドイツ語）	4	41	10.3	4	7	1.8	
合計			9	220	24.4	17	201	11.8

(表9)2023 年度に開講した「旧カリキュラム生(2018年以前の入学者)向け実践英語」

配当 年次	科目 区分	科目名	春～夏学期			秋～冬学期		
			開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数	開講 クラス数	受講者数	クラス 平均人数
	外 国 語 第 1	実践英語	2	38	19.0	2	26	13.0
合計			2	38	19.0	2	26	13.0

(2) TOEFL ITP

1. 概要

マルチリンガル教育センターは、「実践英語(e-learning)」科目の期末テストとして TOEFL ITP を用いている。同科目は、原則として 1 年次生および 2 年次生の全員が履修する必修科目であり、TOEFL ITP の受験者も正規生だけで年間約 6800 人に達する。

2. 2023 年度の実施日程

春～夏学期／正規日程:6 月 24 日(土)、25 日(日)／追試:7 月 6 日(木)、11 日(火)

在宅試験(TOEFL ITP digital を利用したリモート試験):8 月 17 日(木)

秋～冬学期:／正規日程:12 月 2 日(土)、3 日(日)／追試:12 月 14 日(木)、19 日(火)

在宅試験:1 月 28 日(日)

3. 結果

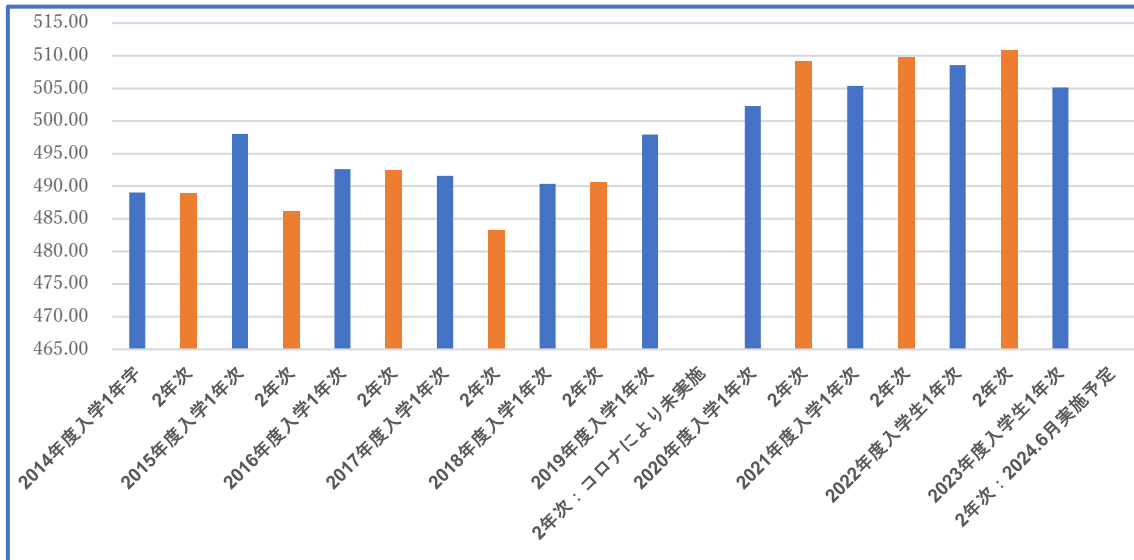
1) 概観

2023 年度入学者 1 年次の平均点は 505.15 点と前年度入学者のそれをやや下回ったが、2019 年のカリキュラム改革によるアクティブ・ラーニング型少人数クラス授業と全学対象の E-Learning 導入後の過去数年のデータを見る限り 1 年次から 2 年次への平均点の伸びは着実であり、全体としても上昇傾向が継続している。2023 年度秋冬学期より E-Learning クラス担当教員のサポートチームによる昼休みと 5 時限目を利用した対面とオンラインによる学習相談会も行っているが、それらの取り組みの具体的な成果の検証には、2024 年 6 月に実施された 2023 年度入学者 2 年次の平均点との比較分析も必要である。E-Learning 授業の取り組み状況や指導課程等を今後分析したうえで、具体的な成果を伴ったより効果的な教育体制を引き続き模索していく必要があると思われる。

2) データ

TOEFL ITP 全学平均点の推移

2014年度入学生		2015年度入学生		2016年度入学生		2017年度入学生		2018年度入学生	
1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
489.02	488.87	498.03	486.20	492.62	492.50	491.57	483.25	490.37	490.55
2019年度入学生		2020年度入学生		2021年度入学生		2022年度入学生		2023年度入学生	
1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
497.94	コロナのため実施せず	502.26	509.17	505.39	509.81	508.58	510.80	505.15	2024.6月 実施予定



(3) TOEIC 対策集中講座および TOEIC IP オンラインテスト

1. 概要

令和 5 年度スーパーグローバル大学創成支援事業の一環として、マルチリンガル教育センターでは、学生の英語力を強化する目的で、学部生及び大学院生のうち TOEIC730 点以上(TOEFL ITP550 点以上)を目指す希望者に対し、令和 5 年 10 月から 11 月にかけて「TOEIC 対策集中講座(オンライン)」を実施した。10 月 16 日、23 日、30 日、11 月 6 日、13 日の全 5 回の講義を実施し、81 名が受講した。この実施により海外への留学を目指す意欲ある学生の英語力向上に寄与し、英語学習へのモチベーションを高めることができた。

また、この講座の関連事業として、TOEIC Listening & Reading IP テスト(オンライン)を、TOEIC730 点以上(TOEFL ITP550 点以上)を目指す学部生および院生に対して実施し、延べ 641 名が受験した。スコアについては、平均点 687.60 点(TOEFL ITP536 点相当)、また、TOEFL ITP550 点以上相当の TOEIC IP730 点以上の学生は 275 名だった。これにより、大阪大学の学生の英語力の自己評価を促進し、英語学習へのモチベーションを高めることができた。

詳細は次の通りである。

2. 資料・データ

(1) TOEIC 対策集中講座(オンライン)

回 / 日程	ターゲット	概要
第1回目 10月16日 (月)	1. TOEIC®のスコアアップに必要なこと 2. リスニングの攻略ポイント (Part 1~Part 2)	<ul style="list-style-type: none"> ・730点を突破する～スコアアップのために ・TOEIC®テストの基本 ・TOEIC®学習を英語コミュニケーションスキル向上に活かす ・Part 1~Part 2 の注意点と攻略のポイント ・重要語彙と英語表現
第2回目 10月23日 (月)	1. 各パート攻略の具体的なメソッド 2. リスニングの攻略ポイント (Part 2~Part 3)	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEIC®スコアアップのテクニック ・各パートの注意点と攻略法 ・TOEIC®本番対策～必ず知っておくべきこと ・Part 2~Part 3 の注意点と攻略のポイント ・重要語彙と英語表現
第3回目 10月30日 (月)	1. 英語スキルアップ自己学習法 2. リスニングの攻略ポイント (Part 4) 3. リーディングの攻略ポイント (Part 5)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の現状を診断し、解決法を知る ・英語スキル向上のための自己学習法 ・Part 4 の注意点と攻略のポイント ・Part 5 の注意点と攻略のポイント ・重要語彙と英語表現
第4回目 11月6日 (月)	1. リーディングの攻略ポイント (Part 5, Part 6, Part 7) 2. 英文法問題の解き方 3. 文のつながり、読解のコツ	<ul style="list-style-type: none"> ・Part 5, Part 6, Part 7 の注意点と攻略のポイント ・英文の読み方 ・文と文の接続 ・速読と熟読 ・重要語彙と英語表現
第5回目 11月13日 (月)	1. リーディングの攻略ポイント (Part 7) 2. 長文読解の解き方 3. 改善・向上への総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・Part 7 の注意点と攻略のポイント ・長文問題のコツ ・複雑な長文問題 ・重要語彙と英語表現 ・総復習とまとめ

(2) 令和5年度 TOEIC Listening & Reading IP テスト(オンライン)の実施状況

実施期間	R5.11.6- 11.24	R5.12.25- R6.1.14	R6.2.13-2.26	R6.3.18-3.24	合計
受験者数	246名	137名	178名	80名	641名
平均点	712.40	671.86	671.86	681.94	687.60 ***
成績優秀者*	45.12%	31.39%	29.21%	33.75%	42.90%

*スコア 730 以上 (TOEFL ITP550 以上相当) の学生の割合

***TOEFL ITP536 点相当

(4) ESAP 教材作成チーム

1. 総合英語における学習教材の使用・改善

2022年度までに作成した科学・工学系論文における単語・複合語教材を春学期に、コロケーション教材を秋学期にそれぞれ、2年次の総合英語授業の副教材として使用した。春夏学期における対象授業は、プロジェクトメンバー2名の担当する4クラス(147名)、秋冬学期の対象クラスはプロジェクトメンバー2名と協力者1名が担当する総合英語の5クラス(184名)であった。

単語・複合語、コロケーション教材はそれぞれ、10単元から構成されており、学習者は各単元の学習後に、学習期間内であれば何度でも受験することが可能な小テストを受験した。また、それぞれの学習期間後に何度でも受験可能なPractice Quizを任意の学習項目として設けることで定着していない英語表現を学習する機会を設けた。加えて、前半および後半5単元の学習後の復習テストであるReview Quiz、学習した10単元の総復習テストであるFinal Testを学習要件として設けた。それぞれの学習教材とテストはCLE上で専用コースサイトを作成し、学習および受験を行うことが出来るようにした。また、下記アンケートをもとに、引き続き教材の改善を行っている。

2. 学習後アンケート

春夏および秋冬学期のFinal Test終了後に教材および学習カリキュラムの改善を目的としてアンケートを実施した。秋冬学期に実施したコロケーション教材に関するアンケート(n=63)では、80%の回答者が学習課題を「有益である」、もしくは「非常に有益である」と回答した。また、62%の回答者が学習課題を「非常に楽しめた」、もしくは、「楽しめた」と回答している。これらの結果から、学習者にとって本学習教材とカリキュラムが学習価値のあるものであると認識される一方で、学習プロセスを楽しむという点については課題が残されていることが明らかとなり、今後の改善点として検討している。

3. 学習教材開発についての検討

前年度に引き続き、ESAP教材開発チームでは、工学分野に特化した英語学習教材開発の検討を行い、今後の教材開発の方向性として、論文に代表される工学分野に特化した書き言葉に対応する話し言葉の表現集の必要性などが提案された。また、日本語からは直接、英語にしにくい複単語表現(multiword expression)の学習ツールの重要性も提案されており、今後はこれらの教材開発に向けたコーパス分析と教材デザインについて更に検討を進める予定である。

4. プロジェクト概要の発表

12月8日に行われた第8回大阪大学豊中地区研究交流会では、「特定学術目的の英語(ESAP)教材開発プロジェクト 科学・工学系語彙学習教材の作成と試行」という題目で

本プロジェクトの概要についてポスター発表を行った。高校生、高校教員、学部生、大学院生、大学教員といった幅広いオーディエンスの抱く英語教材に関するニーズについて直接、意見交換をする

貴重な機会となり、今後はそれらのニーズを踏まえながら本プロジェクトにおける教材開発を進めてゆきたいと考えている。

第8回大阪大学豊中地区研究交流会

特定学術目的の英語 (ESAP) 教材開発プロジェクト 科学・工学系語彙学習教材の作成と試行

今尾 康裕 エディ・バンドロム 瀬戸 義隆
(マルチリンガル教育センター)

概要
本プロジェクトでは、全学共通教育の英語教育と専門教育で必要とされる英語教育の橋渡しを目的とした、ESAP (English for Specific Academic Purpose: 特定学術目的の英語) 語彙教材を開発している。工学部の協力のもと、化学・物理や応用系の基礎科学の論文を集めてコーパスを作成し分析した。そこから科学・工学に特徴的なものを中心に単語・複合語・コロケーションなどを取り上げて論文からの例文を組み合わせ、CLE 上で利用できる教材として開発し、授業で試用している。

プロジェクトの背景

- 本学では、1, 2年次の全学共通教育の英語教育と、その後の専門教育に必要な英語教育を連携したシステムが存在しない。
- 将来的な高年次英語教育の実施を見据えて、全学共通教育の「総合英語」授業で使用する専門分野に特化した英語教材 (ESAP教材) を開発

ニーズ分析
工学研究科の教員対象に、工学部学生に必要な専門的英語技能を調査
プレゼンテーション・ディスカッション
守秘義務 → 言語データ収集が困難
コロナ禍

論文の読み書き 異なる分野でも共通して読まれる論文誌
基礎・応用科学論文の言語データベース (コーパス) の作成

コーパス作成に用いた媒体
論文・記事 5,680報、総語数2,420万語
基礎・応用科学論文
Physical Review B, Journal of American Chemistry Society (JACS), Scientific Reports
一般科学雑誌
Scientific American, National Geographic, Discover

教材に使用する表現の選択
ねらい: 理系に特徴的な表現と日常語と異なる意味・用法に目を向けるための教材作成
教材として使用する表現の種類

- 語彙、複合語
- 文法関係に基づく動詞・名詞が中心語のコロケーション (連語)
例) 名詞修飾 (名詞+名詞)、副詞的修飾 (副詞+動詞)

コーパス分析による教材として有用な表現の選択

- 統計的指標にもとづく科学・工学に特徴的な表現の特定
- 学部2年生時点での既習語彙を含む
- 日本語から訳しにくい表現
- 工学分野と一般的文章で使用意味が異なる表現
例: complex: 複雑な (一般的文章)、錯体 (化学的文章)

見出し語 発音記号
単語 addition /ə'dɪʃ(ə)n/ J: ★★★★★ M: ☆
 Define Boolean addition as follows XVARX.
 フォル加算を次の (数式) の様に定義する。
 例文は作成したコーパスから抽出
 All samples had an addition of 10% NFC as binder.
 すべての試料に結合剤として10%NFCが添加された。
 Note: フォル (ブーリアン) /'bʊliən/ の発音も確認しておきましょう。
 使用媒体
論文 (1) と一般科学雑誌 (4) での使われやすさ

複合語 cell membrane /sɛl 'membreɪn/ 1. biology 2. anatomy-physiology 使用分野: 表現が使われやすい学術分野
 Cell membrane damage by nanostructures leads to bacterial death.
 ナノ構造体による細胞膜の損傷は、細菌の死滅につながる。
 A cell membrane functions as a barrier of permeability that compartmentalizes cells.
 細胞膜は、細胞を区分けする透過性のバリアとして機能する。
 Note: Also known as "plasma membrane (PM)" or "cytoplasmic membrane".

品詞 (adv+) closely relate
 This is important because it is closely related to the following problem.
 これは、次の問題と密接に関連しているため、重要である。
 These multiple binding activities are closely related to the structural features of hydrogen sulfide.
 これらの複数の結合活性は、硫化水素の構造的特徴と密接に関連している。

コロケーション
 Note:
 Note that the passive voice (受動態) is again predominant in these expressions.
 "Widely" is a common synonym (同義語) for "extensively".
 But "strongly" is not a synonym for "closely" in these contexts.
表現の学習に関する情報

授業外学習教材としての使用と受講者の反応
授業外学習の進め方

- CLE上で「総合英語」とは別の専用コースをプロジェクトメンバーが運営
- 合計14週間の授業外学習を実施
 - 授業外学習の進め方についての学習 (1回)
 - 毎週の教材学習と小テスト (10回)
 - 復習テスト (2回)と期末テスト (1回)
 - 最終週にアンケートを実施
- 「総合英語」の評価の一部に授業外学習の成果を組み込み (最大100点中10点)

受講者の反応 (2023年春夏学期アンケートより抜粋)

- 84%のアンケート回答者が授業外学習は有益であったと回答。
- 専門分野に関する英単語を学び、さらに英語に対する学習意欲が増した。
- 普通の英語の授業では学ばない単語を学べて楽しかった。
- 工学系の専門用語に英語で触れる機会は今まであまりなかったので、「英語ではこう言うんだ」という発見が多くあったのでとても良かった。

今後の展望

- 論文での表現とプレゼンテーション口語表現の対比
- 専門分野に関する表現の「意識付け」から「語彙力強化」に向けた語彙リスト・自習教材の作成
- 様々な専門分野における語彙教材開発と他研究科との協力体制を模索

図 1: 「特定学術目的の英語(ESAP)教材開発プロジェクト 科学・工学系語彙学習教材の作成と試行」ポスター資料

5. 大阪大学賞受賞

前年度までの当プロジェクトの取り組みが評価され、今尾康裕と前年度まで担当の岡本清美が「特定学術目的の英語(ESAP)教材の開発と全学共通教育英語科目での活用」で大阪大学賞を受賞した。

(5) OU マルチリンガルプラザ

1. 概要

OU マルチリンガルプラザは、英語・多言語・および外国語としての日本語の学習を対象に、課外の自律的な学びを支援する施設として、2020 年 4 月に豊中キャンパス・サイバーメディアセンター豊中教育研究棟 4 階に開室された。また、令和 2021 年度には、吹田キャンパス IC ホール 2 階に分室が開室された。

OU マルチリンガルプラザでは以下のようなことを行っている。

- ・自習スペースとしての施設の開放
- ・大阪大学で専攻語として学べる 25 言語の参考図書の配架
- ・言語学習ポートフォリオの発行、配布
- ・会話練習パートナーとのセッション(英語・日本語・中国語・韓国語 1セッション各 20分)
- ・言語学習アドバイジング
- ・留学生等を対象とした日本語チュータリング
- ・言語学習ポートフォリオワークショップ(日本語学習・多言語学習)
- ・TA/TF の企画・進行による、言語学習および多文化理解に関するイベントの開催

また、ウェブサイト・Twitter・Instagram・KOAN でイベント・ワークショップや会話練習の利用者の募集のほか、多言語学習や多文化理解に関する情報を発信した。これに加え、2023 年度は LINE のオープンチャットを開設しイベント・ワークショップや会話練習の利用者の募集を行った。

2. 2023 年度の運営状況

2023 年度は、10 時から 15 時までの開室時間で運営を行った。これは 2022 年度の開室時間よりも 2 時間長かった。ワークショップやイベントは基本的にすべて施設内での対面方式で実施した。ただし、会話練習や一部のワークショップでは、希望によりオンラインでの参加も可能とし、ハイブリッド形式で実施した。

豊中と吹田のそれぞれの施設において、今年度実施したイベントやワークショップは以下の通りである。

・豊中

- ①英語、日本語、中国語、韓国語の会話練習
- ②日本語学習アドバイジング
- ③留学生等を対象とした日本語チュータリング
- ④言語学習ポートフォリオワークショップ
- ⑤TA/TF 企画による多言語・多文化理解を促進するイベント

- ・世界の屋台グルメを楽しもう！
- ・アジアを旅しよう！
- ・世界のお菓子大集合！1&2
- ・英語で「人生ゲーム」をしてみよう
- ・世界のお茶を飲んでみよう！
- ・中国の食文化を知ってみよう！
- ・世界のゲームで遊んでみよう！

⑥TA/TF 企画によるグループ会話「日本語サロン」

⑦スワヒリ語・東アフリカの文化ワークショップ

・吹田

OU マルチリンガルプラザ IC ホール分室(OMPIC)は、日本語を学ぶ留学生および研究員を対象とした日本語グループ会話「OMPIC サロン」を実施した。主に吹田キャンパスで研究する理系の留学生と研究員の参加があった。



写真 1. 25 言語の参考図書



写真 2. TA/TF 企画による多言語・多文化理解イベント（「世界のお菓子大集合！」）



写真3. OMPIC サロン



写真4. TA 企画のためのミーティングの様子

サービスの利用者数は、延べ 1255 名 (春夏学期 698 名、秋冬学期 557 名) であった。

なお、令和 5 年度のサービス別利用者割合は以下のグラフの通りである。対面および Zoom によるハイブリッド形式でサポートを実施したが、対面での利用者が約 7 割であった。

また、会話練習においては、英語運用能力の向上が全学的な課題であること、そして英語会話練習へのニーズが高いことから、英語枠を増やしたところ、より多くの利用者を得た。また、英語の会話練習では、他キャンパスからのオンラインでの利用者が多く見られ、ハイブリッド形式でのサポートの意義があったといえる。会話練習はパートナーとの 1 対 1 もしくは 2 対 1 で行っているが、前日や当日に病気などで予約のキャンセルが出た場合、それを埋める利用者を得るのが難しいというのが令和 4 年度までの課題であった。これについて、令和 5 年度は先述の LINE のオープンチャットでキャンセルの情報を出すようにしたところ、当日でも、空いたセッション枠がすぐ埋まるようになり、稼働率が向上した。

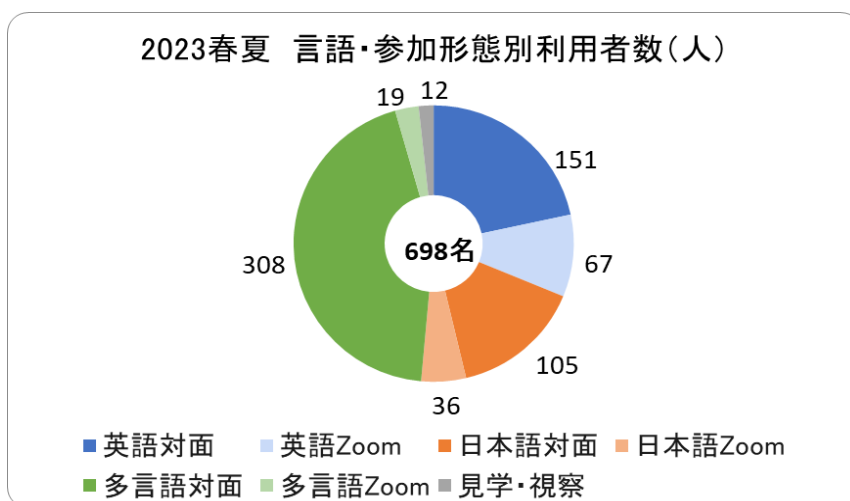


図1. 令和5年度春夏学期のサービス別利用者数

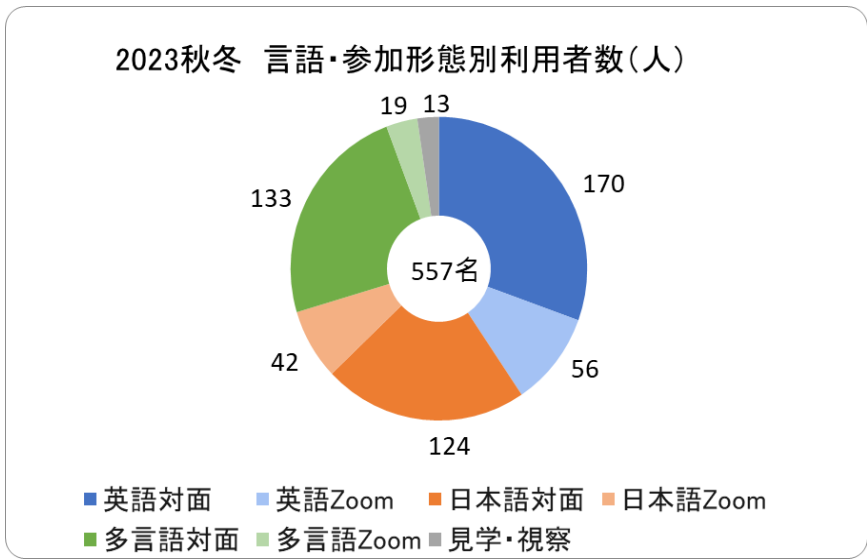


図2. 令和5年度秋冬学期のサービス別利用者数

3. 多言語学習支援ネットワークへの参加

現在、大阪大学内には、OU マルチリンガルプラザにもさまざまな言語学習支援や多言語・多文化の交流促進のための取り組みが行われているが、それらの活動の趣旨や日時が重複していたり、それぞれの活動が個別で実施されていたりすることにより、活動の情報の共有がうまくなされていないという課題がある。そこで令和4年度に国際教育交流センター主導で「学習・学修支援、多言語・多文化交流促進に関する情報共有・意見交換会」が立ち上げられ、OU マルチリンガルプラザ運営スタッフもメンバーとして参加している。令和5年度には、2回のミーティングがオンラインで開催され、各学習支援サービスの担当者が集い、意見と情報の交換が活発になされた。この時の情報をもとに、学内の言語学習支援サービスを総合的に案内するためのブックレットが作成され、学内に配布された。次年度以降もこのネットワークを活かして、より有機的な言語学習支援に取り組む予定である。

(6) 各種 FD

FD 講演 1

日時: 2023 年 5 月 25 日(木) 16:30～18:00

会場: zoom によるオンライン講演

演題: 「選択-革命か、延命か」

講師: 木村修平(立命館大学教授)

概要: AI (翻訳・文章生成システム)を英語カリキュラムに統合し、活用している先進例についての FD 講演。今後の外国語教育のあり方と方向性を立命館大学における実例を元に考察・学習した。

FD 講演 2

日時: 2023 年 9 月 29 日(金) 15:00～16:30

会場: zoom によるオンライン講演

演題: 「英語での質疑応答における課題と改善策-指導の実践と NS・NNS 研究者から得た知見から」

講師: 島村東世子(株式会社イー・グローブ 代表取締役、大阪大学大学院工学研究科 非常勤講師)

概要: 英語プレゼンテーションの質疑応答における課題と改善策を、具体的な指導に当たっている講師から学習する機会を得た。

FD 講演 3

日時: 2023 年 12 月 14 日(木) 16:00～17:30

会場:

演題: 「ディープ・アクティブラーニングを取り入れた読解活動」

講師: 金澤佑(大阪大学大学院人文学研究科講師)

概要: 対話的で深い学習を促すリーディングサークル(RC)や、その進化版としてのチャレンジャーズ・リーディングサークル(CRC)についての講演。小グループでの役割分担による知識共有に基づいた RC から一歩進み、CRC では想起や競争によるゲーム性を組み込むことで、受動的な理解確認活動を、創造性や批判的思考などの 21 世紀型スキルを養う能動的な活動へと進化させる。協同性や真正性を高めるための P4ELT(Philosophy for English Language Teaching/ Teachers/Trainees)の手法を用いた活動への発展の可能性についても学習した。

2. FD 活動

各言語部会においても第二外国語教育をめぐって下記の FD 活動が行われた。

FD 活動 1

日時:2023 年 4 月 4 日・7 月 11 日・2024 年 1 月 16 日

会場:メールによる協議

実施内容:外国書教科書の特注取寄せに関する生協との協議(第1回)～(第3回)

参加者:各回 2 人

FD 活動 2

日時:2023 年 8 月 8 日・8 月 10 日

会場:言語文化 B 棟朝鮮語研究室

実施内容:学生用図書の選定(第 1 回)・(第 2 回)

参加者:各回 1 人

FD 活動 3

日時:2024 年 1 月 23 日

会場:言語文化 B 棟朝鮮語研究室

実施内容:2024 年度カリキュラムの総合的検討

参加者:1 人